

## 第2回宇宙開発委員会（定例会議）

### 議 事 次 第

1. 日 時 昭和53年3月8日（水）午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 ○ 実験用中型放送衛星（BS）の打上げ計画について

説明者

宇宙開発事業団理事 平 木 一

郵政省電波監理局  
宇宙通信開発課長 金 田 秀 夫

4. 資 料
- 委2-1 第1回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨
- 委2-2 実験用中型放送衛星（BS）打上げ及び追跡管制計画書
- 委2-3 実験用中型放送衛星（BS）実験基本計画書

（参考配布）

- 実験用中型放送衛星（BS）実験計画の概要

第1回宇宙開発委員会（臨時会議）

議 事 要 旨

- 1. 日時 昭和53年2月4日(土)  
午前10時～12時
- 2. 場所 宇宙開発委員会会議室
- 3. 議題 政策大綱調査会報告について
- 4. 資料  
委1-1 第29回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨  
委1-2 宇宙開発政策の大綱素案及び付属資料  
参考配布 昭和53年度宇宙関係政府予算案総括表

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	網 島 毅
"    委員	吉 識 雅 夫
"    "    "	八 藤 東 福
"    "    "	斎 藤 成 文
関係省庁職員等	
科学技術庁長官官房参事官	佐 伯 宗 治
文部省学術国際局審議官	手 塚 晃
	(代理：滝本)
通商産業省機械情報産業局次長	水野上 晃 章
	( " : 吉田)
"    工業技術院総務部長	沢 井 新一郎
	( " : 高橋)
運輸省大臣官房参事官	沼 越 達 也
	( " : 上田)

運輸省気象庁総務部長	高 井 重 寿
	( " : 高谷)
郵政省電波監理局審議官	門 田 博
	( " : 齋)
"    "    "	九 里 茂
宇宙開発事業団	山 田 良 雄
事務局	
科学技術庁研究調整局宇宙企画課長	伊 藤 栄 一
"    "    宇宙国際課長	三 浦 信
"    "    宇宙開発課長	雨 村 博 光他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第29回宇宙開発委員会（臨時会議）議事要旨が確認された。

(2) 政策大綱調査会報告について

政策大綱調査会の牧野昇座長及び山内正男委員から資料委1-2に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われ、報告が了承された。

八藤：この大綱素案を政策へ転化していく上で特にアドバイスなり、気が付いた点等があれば聞かせてもらいたい。

牧野：1つは日本の宇宙開発が大変広い分野にわたり、かつそれぞれ関連があり、これら既存のものをまとめていくのはむずかしいが、チャレンジターゲットをしほりながら目標に向って行くという方向が望ましい。

第2には素案では費用の点はほとんどふれていないが、

どの程度の費用が必要か考え、さらに決められた費用の中で計画が遂行できるよう最善の努力をする必要がある。

第3は今の日本はハードの研究が中心でソフトの分野が不十分、NASAなどはシステム技術により大きな成功を修めている。全体の計画の進め方、運用の仕方をととのえる必要がある。

第4は、NASAの発表文などでは「アセスメント」ということばを全体的点検という意味でしばしば使っていたが、日本ではこの言葉がマイナスイメージを与えるのでなかなか使えないが、やはりこれも十分に考えていく必要がある。

第5は、人材教育の問題ですが、NASAではプロジェクトチームを作る際、モビリティがありプロジェクトが終了したのちはもとにもどすことができるが、日本にはそのような組織がないので、大型プロジェクトチームを作りにくい。人の使い方の制度的な問題を考えるべきではないか。

吉識：人材の養成は多くの問題がある。日本では縦割制が強いため改善がむずかしい。ポジションをそのままにしてプロジェクトに参加する方式ならば、終身雇用と相反せずにできる1つの方法ではないか。

綱島：短期間に広汎にわたる問題をまとめられ、そのご若労に感謝する。今年度の宇宙開発計画、さらに今後の宇宙開発活動に反映させていきたい。大綱は今年度中に決定する予定であるが、その間、牧野・山内両氏にはさらに御意見を聞くこともあろうかと思われるので、今後ともよろしく願います。